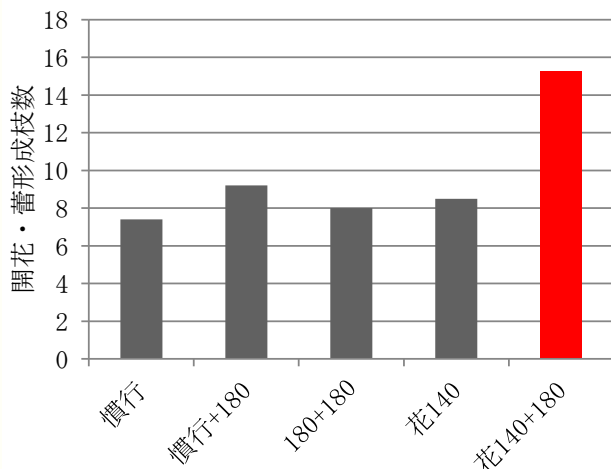
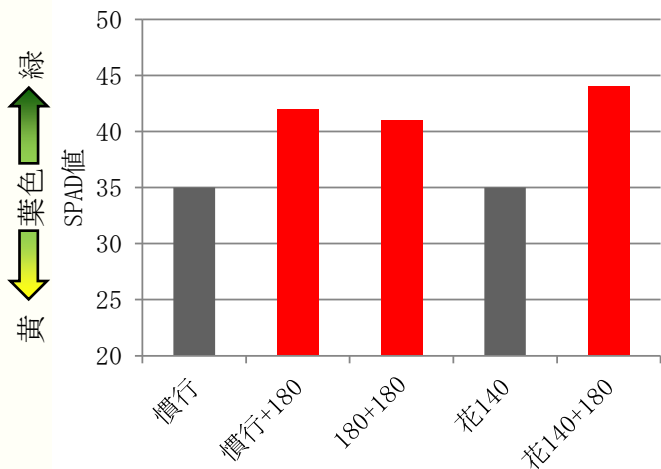


フランネルフラワーの黄化葉発生を抑制する 技術を確立しました

フランネルフラワーは、仕上鉢に移植し、鉢替え3か月後あたりから葉色が薄くなり、開花時期には黄化葉が発生する場合があります。特に、春出荷の場合、仕上げ鉢後の栽培期間が長いため、黄化葉の摘葉が必要となり、出荷時の作業負担が大きくなります。そこで、基肥における施肥量および種類と鉢替え後の追肥による黄化葉発生の抑制技術を開発しました。



鉢替え20週間後のSPAD値(H24)

開花および蕾形成枝数(H24)

※①慣行(用土1L当たり):140日タイプエコロングトータル5g、②慣行+180:慣行にエコロングトータル180日タイプ3g、③180+180:エコロングトータル180日タイプ8g、④花140:ロングトータル花き1号140日タイプ5g、⑤花140+180:ロングトータル花き1号140日タイプ5g+エコロングトータル180日タイプ3g
※4号鉢上げ:8月29日、調査:1月15日、冬期は最低温度7℃で管理

追肥別の黄化葉の発生数(H22)

追肥	黄化葉数 (/株)
無 (対照)	60.0
IB化成 3粒/鉢	44.0
エコロングトータル70日 2g/鉢	29.5
エコロングトータル140日 2g/鉢	42.5
クマイ液肥 1000倍 100ml/鉢	34.0

※4号鉢上げ:11月10日、追肥:2月2日(出蕾時)、調査:3月15日(花梗伸長時)、液肥は4回(2週間間隔)

(研究成果)

- ・ 慣行基肥に180日タイプのエコロングトータル肥料を追加することで、鉢替え後の葉色の低下を抑制することができます。
- ・ 慣行基肥よりP成分の割合が高いロングトータル花き1号140日タイプと180日タイプのエコロングトータル肥料を併用すると、切戻し後の連続開花性が増大します。
- ・ 鉢替え2～3か月後に70日タイプのエコロングトータル2gを追肥することで、黄化葉の発生を少なくすることができます。また、液肥施用も同じ効果が得られます。